

## 東京女子医科大学八千代医療センター 形成外科 診療科紹介

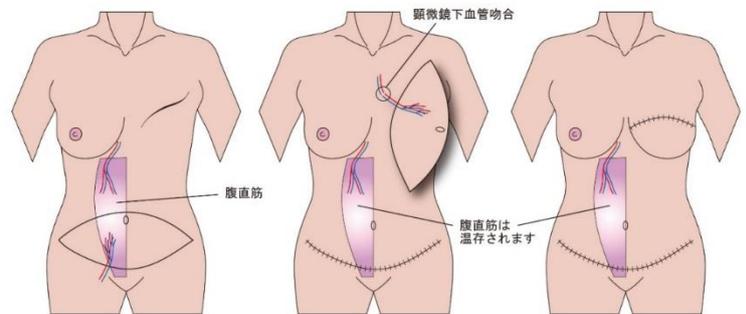
形成外科は、頭部・顔面・手・足など、外から見える部分を中心に、先天的な（生まれつきの）形の異常および後天的な体表面の腫瘍、変形、外傷、瘢痕（創痕）などを対象にする外科です。顔面では皮膚軟部組織の損傷だけでなく骨折も対象としています。また腫瘍切除後の組織欠損や運動機能の修復・再建にも積極的に取り組んでいます。特に八千代医療センター形成外科では以下の3つを得意分野としています。また初期研修医への縫合実習、分野別の講義などを盛んに行っております。当科での初期研修は一カ月単位の選択式となります。



初期臨床研修医への縫合実習

### <自家組織移植を用いた乳房再建>

乳房再建とは乳癌手術により失われた乳房を作り直す手術です。女性にとっての美しさの象徴でもある乳房は、喪失により非常に大きな精神的苦痛を伴います。当科では乳癌患者さんの要望に応じて、いくつかの手術方法を提案し再建手術を行っています。



深下腹壁動脈穿通枝皮弁 (DIEP flap)を用いた乳房再建

### <腱膜性眼瞼下垂手術>

眼瞼下垂症とは、上瞼（うわまぶた）が下がってきて、物が見えにくくなっていく状態のことをいいます。腱膜性眼瞼下垂症といって、年齢をとるとともに上瞼の皮膚がたるんだり、上瞼をもち上げる筋肉が伸びきったり、固定部がゆるんだりするのが原因です。頭痛・目の奥の痛み・肩こり・首筋の張りの原因ともなります。



術前

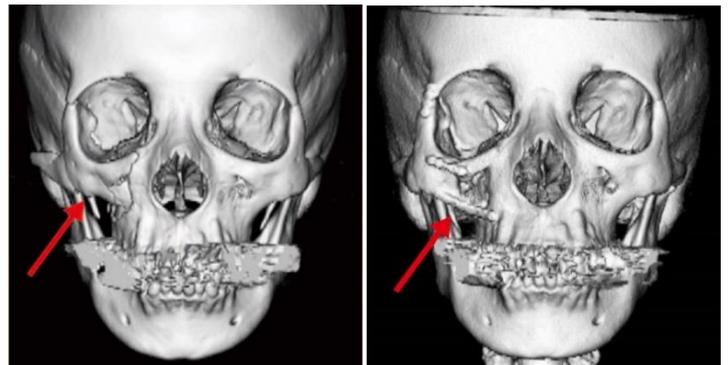


術後

眼瞼下垂症に対する挙筋前転術

### <顔面骨骨折の治療>

顔面は、交通事故や転倒/転落、スポーツや暴力など様々な原因によって、損傷を受ける機会が多く、受傷後の顔面の変形や傷跡（きずあと）による醜形は心理的に大きな苦痛となります。当院では術前に3DCTを用いて骨折の状態の評価、手術シミュレーションを行います。



顔面骨術前後 3DCT 画像